学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	丸山 千波	
科目名	ブライダル演習		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	16コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ブライダルに関わる演習項目を通して、6月28日と7月19日のオープンキャンパスで模擬挙式と披露宴の施行実施。 模擬挙式・模擬披露宴は各役割を決定し全員で施行する。なお、各役割を全員が把握し、担当出来るように習得する。 ドレスショーに向けて、ブライダル・ホテル業界を志す上での立居振る舞いや所作を習得し実践する。				
◆概要	ブライダル業界に関わるスペシャリストの実務を理解、関心を深め実践する。 ブライダル・ホテル業界に相応しい立居振る舞いや礼儀作法、ブライダル関連商品の取り扱い方を習得する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	概要説明/ドレスルームの使用ルール、ドレス・タキシード・小物類の取り扱い方/過去挙式・披露宴の参考資料確認				
第2週	模擬挙式・披露宴練習またはドレスショー練習				
第3週	模擬挙式・披露宴練習またはドレスショー練習				
第4週	模擬挙式・披露宴練習またはドレスショー練習				
第5週	模擬挙式・披露宴練習またはドレスショー練習				
第6週	模擬挙式・披露宴練習またはドレスショー練習				
第7週	模擬挙式・披露宴練習/リハーサル				
第8週	模擬挙式・披露宴練習/リハーサル				
第9週	中間試験/模擬挙式リハーサル				
第10週	模擬挙式リハーサル/★6月28日(土)オープンキャンパス模擬挙式				
第11週	模擬披露宴リハーサル				
第12週	模擬披露宴リハーサル				
第13週	模擬披露宴リハーサル/★7月19日(土)オープンキャンパス模擬披露宴				
第14週	模擬挙式・披露宴マニュアル作成				
第15週	模擬挙式・披露宴マニュアル作成				
第16週	期末試験				
3. 履修上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・全員と協力しながら、積極的に取り組むこと。 ・校内の備品、商品は丁寧に扱う事。備品、ドレスルーム使用方法のルールに則り、授業態度・姿勢の成績評価に反映する。 					
4. 使用教材(テキスト等)					
日本のウェディングプランナー育成プログラム、日本のドレスコーディネーター育成プログラム、ノートパソコン					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み（授業姿勢）50% ・中間試験、期末試験による評価 40%					
6. その他					
担当者実務経験：専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウェディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウェディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	丸山 千波		
科目名	ブライダルプランニング1	必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ブライダルの歴史、習慣、儀式、用語を理解し、ウェディングプランナーの実務、役割を身に付ける。 BWJ「認定ウェディングプランナー」の試験合格を目指す。				
◆概要	ブライダル業界の基礎、ウェディングプランナーに必要な知識、実践的なスキルを身に付けると共に、多様化するブライダル業界の現状を知り、関心を深める。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	概要説明/第1章～第2章				
第2週	ブライダル業界と業態について/パートナー企業とは/ブライダルスペシャリストの職種/地域の習慣と特性				
第3週					
第4週	第4章				
第5週	挙式と披露宴のスタイル				
第6週					
第7週	第3章				
第8週	ブライダルの歴史と慣習/結納に関する補足				
第9週	中間試験				
第10週	第3章				
第11週	熨斗と水引について/ご祝儀とは/結婚式参列のマナー/ブライダルサービス				
第12週	第5章				
第13週	婚礼衣裳/美容/花/衣裳業務				
第14週					
第15週	第6章				
第16週	ウェディングプランナーの業務と流れ/打合せスケジュール/施行当日のスケジュール				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
WBJ「認定ウェディングプランナー」試験に向け、履修項目の復習を必ず行うこと。					
4. 使用教材(テキスト等)					
日本のウェディングプランナー育成プログラム、ノートパソコン、ブライダル関連の雑誌や書籍					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・ 出席による評価 10% ・ 授業への取り組み(授業姿勢) 40%					
・ 中間試験、期末試験による評価 50%					
6. その他					
担当者実務経験: 専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウェディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウェディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。					

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	山田 佳代子		
科目名	美容実習（メイク）	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	メイクアップ化粧品や、メイクアップ道具の特徴を理解します。又、色の持つ効果を活かし、衣装のイメージに合ったメイクアップを時間内に仕上げることを目標とします。				
◆概要	多種あるメイクアップ化粧品をを効果的に使い美しく仕上げられること。そしてメイクアップ道具を使いこなせるよう学び、メイクアップのイメージを大きく左右する色物をバランスよく配色できるようにします。実習は相モデルで行い、最終的にモデルの選んだドレスに合ったメイクアップをデッサンし、時間内にそのメイクアップを仕上げることを目標とします。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週(4/9)	・自己紹介 ・メイクの必要性 ・最終目標の確認 ・肌アンケート ・道具の特徴と説明 ・セッティングの仕方 ・施術中のマナー ・ベースメイクテクニック説明（・相モデル実習）				
第2週(4/16)	・説明&実習（・ベースメイク ・アイブロー）				
第3週(4/23)	・説明&実習（・同上 ・アイシャドー ・アイライナー）				
第4週(5/7)	・説明&実習（・同上 ・アイラッシュカーラー ・マスカラ ・リップ）				
第5週(5/14)	・説明&実習（・同上 ・チーク）				
第6週(5/21)	・説明&実習（35分計る ・ベースメイク ・アイブロー ・アイシャドー ・アイライナー ・アイラッシュカーラー ・マスカラ ・リップ ・チーク）				
第7週(5/28)	・同上				
第8週(6/4)	・同上				
第9週(6/11)	中間試験 ベースメイク～チーク(35分間)				
第10週(6/18)	・ドレス決め ・メイクデッサン(メイク&ヘアー) ・実習(色合わせ)				
第11週(7/2)	・それぞれのデッサンを元にメイクする(イメージに合わせて進める)				
第12週(7/9)	・同上				
第13週(7/16)	・同上				
第14週(7/16)	・メイクリハーサル(前半) ・メイク&ヘアーセット練習				
第15週(8/27)	・メイクリハーサル(後半) ・メイク&ヘアーセット練習				
第16週(9/3)	期末試験(前半) ・試験 ・ヘアーセット ・ドレス着用 ・撮影会				
第17週(9/10)	期末試験(後半) ・試験 ・ヘアーセット ・ドレス着用 ・撮影会				
3. 履修上の注意					
メイクアップ道具は人を美しくするツールなので、常に清潔でなくてはならない。その為、道具の取り扱いやメンテナンスには気を配ること。又、人の肌に直接接触れる為、爪の長さには配慮が必要です。実習後のクレンジングやメイク直しについては、実習道具を使うことなく、自身のメイク道具を持参し行うこと。※実習はノーメイクで行います。化粧下地(日焼け止め)まで付けて来る。(色付きの場合は授業前に落としておく)					

4. 使用教材(テキスト等)

・メイク道具一式 ・タオル ・鏡 ・メイクドール

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(授業態度・実技姿勢) 20%
- ・中間(実技) 期末試験(実技&デッサン) 各70%

6. その他

担当者実務経験:化粧品メーカーでビューティーカウンセラーとして勤務経験のある教員が、現場での経験により、接客時のマナーやブライダルメイク、セルフメイクを指導する科目である。

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	西村 明美	
科目名	和装コーディネート		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	着付けマナーを心得た美しい着付けときものに関する知識の習得を目標とする				
◆概要	着付けを通してきものに触れていただき、基本的なきものの知識を学びます				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週(4/7)	授業スタートにあたり挨拶・きものの名称、着付け小物の説明、男物女物の違い・ボディに着せながら補正の説明実際に補正を行う				
第2週(4/14)	補正・長襦袢の着付け・長襦袢のたたみ方				
第3週(4/21)	補正・長襦袢の着付け・長襦袢のたたみ方・着物の扱いについて・着物のたたみ方				
第4週(5/12)	補正・長襦袢、振袖の着付け・長襦袢、振袖のたたみ方/男性襦袢着物の着付け角帯				
第5週(5/19)	季節によるコーディネイト・留袖、訪問着、振袖の説明・長襦袢の着付け・帯の持ち方・帯め、帯揚げの結び方				
第6週(5/26)	補正・長襦袢、振袖の着付け・帯結び・たたみ方/男性襦袢着物の着付け帯結び・たたみ方				
第7週(6/2)	補正・長襦袢、振袖の着付け・帯結び・たたみ方/男性襦袢着物の着付け帯結び・たたみ方				
第8週(6/9)	中間試験ペーパーテスト・実技:補正、長襦袢の着せ方、たたみ方/男性襦袢着物の着付け・たたみ方				
第9週(6/16)	補正・長襦袢、振袖の着付け・帯結び・たたみ方/男性襦袢着物袴の着付け・たたみ方				
第10週(6/23)	補正・長襦袢、振袖の着付け・帯結び・たたみ方/男性襦袢着物袴の着付け・たたみ方				
第11週(6/30)	補正・長襦袢、振袖の着付け・帯結び・たたみ方/男性襦袢着物袴の着付け・たたみ方				
第12週(7/7)	浴衣の着付け(自分で着る)・浴衣の所作・和食のマナー				
第13週(7/14)	補正・長襦袢、振袖の着付け・帯結び・たたみ方/男性襦袢着物袴の着付け・たたみ方				
第14週(7/28)	補正・長襦袢、振袖の着付け・帯結び・たたみ方/男性襦袢着物袴の着付け・たたみ方				
第15週(8/25)	補正・長襦袢、振袖の着付け・帯結び・たたみ方/男性襦袢着物袴の着付け・たたみ方				
第16週(9/1)	補正・長襦袢、振袖の着付け・帯結び・たたみ方/男性襦袢着物袴の着付け・たたみ方				
第17週(9/8)	期末試験 実技:補正から帯結び、着物・襦袢のたたみ方/男性補正から袴・たたみ方				
3. 履修上の注意					
女子は二人一組、男子は男性ボディを用いて実習を行う。 フードのついた洋服の着用は避け、髪が長い場合はシニヨンにまとめる。					
4. 使用教材(テキスト等)					
授業に合わせて、必要時に資料を用意					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:相対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 40%					
・中間・期末試験 50%					
6. その他					
担当者実務経験:和装ショップ、着付け教室にて着付け講師として勤務する教員が、実務経験から、着付け時の接客マナーや正しい着付けの仕方等を、近年の和装の傾向を交えながら指導する科目である。					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	清水 恵美		
科目名	情報リテラシー1,2	必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	1
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	タッチタイピングおよびWindows操作が仕事に支障ない程度にできる パソコンの基本的なトラブルシューティングができる マイクロソフトWORDでビジネス文書の作成ができる 日本情報処理検定協会主催の「ワープロ検定準2級」および「文書デザイン検定2級」以上の検定に合格する				
◆概要	ワープロ検定および文書デザイン検定の問題を解きながら、タイピングの基礎、Windows操作、Wordによる文書作成および基本的なトラブルシューティングを習得する。7月および10月に個々の習熟度に応じた級の検定を受験する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	タッチタイピングの基本および日本語文章入力、インターネットの設定、プリンターの設定 Windows、Wordの基本操作およびトラブルシューティング				
第2週	ワープロ検定3級程度の問題解法 個別問題演習				
第3週	ワープロ検定準2級程度の問題解法 個別問題演習				
第4週	ワープロ検定2級程度の問題解法 個別問題演習				
第5週	ワープロ検定準1級程度の問題解法 個別問題演習				
第6週	ワープロ検定1級程度の問題解法 個別問題演習				
第7週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第8週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第9週	情報リテラシー1 期末試験 ワープロ検定準2級程度の問題				
第10週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第11週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第12週	問題演習およびワープロ検定				
第13週	文書デザイン検定3級および2級の問題解法 問題演習				
第14週	文書デザイン検定2級の問題解法 問題演習				

第15週	文書デザイン検定2級の問題演習
第16週	文書デザイン検定1級の問題解法 問題演習
第17週	情報リテラシー2 期末試験 文書デザイン検定2級程度の問題
3. 履修上の注意	
<p>授業課題の提出あり(MITファイルサーバへ)。 欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する。 課題が期日までに出せない場合、基準に満たない場合は、単位不認定となる場合がある。 授業に出席していても、私語や居眠りが多い場合はその時間を欠席とみなすことがある。</p>	
4. 使用教材(テキスト等)	
<p>マイクロソフトWordを使用 授業配布プリント 検定過去問題のプリント</p>	
5. 単位認定評価方法	
<p>評価基準:絶対評価 授業態度20%、中間・期末試験50%、課題・小テスト30% ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動する。</p>	
6. その他	

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル		担当者	小林千尋	
科目名	キャリアプランニング1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	希望する業種・職種で職を得るために、効果的で適正な就職活動を行うべく、実務的な準備(履歴書作成など)とキャリア教育(各種自己分析など)を通じて実践的なレベルを目指す。				
◆概要	自己分析を通じて自分のゴールを再度確認する。履歴書は自らの歴史と自分自身をPRするものなので、広義のとなる。また、実際の就職活動により密着した自己PRや仮の志望動機も作成してみる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	「キャリア」とは、3年間の心構え、卒業生の内定先・就活について、「振り返り」				
第2週	ライフライン分析、キャリアパス				
第3週	「職業興味と職業適性」				
第4週	グループワーク「雪山で遭難」、「新聞タワー」				
第5週	自己分析①「ジョハリの窓」、「エゴグラム」				
第6週	自己分析②「ほめられたこと」、「良いところ見つけ」				
第7週	自己PR文をつくってみよう				
第8週	中間テスト(作文)				
第9週	企業研究・求人票を見てみよう①(求められる人材は)				
第10週	企業研究・求人票を見てみよう②(賃金、休日、社会保険など)				
第11週	企業研究・②(求人票を使って)求められる人材とは				
第12週	一般教養(社会人基礎、時事問題)				
第13週	一般教養(初歩のSPI)				
第14週	履歴書作成①(自己PR、志望動機以外を記入)				
第15週	履歴書作成②(自己PR確認、職種志望動機作成)				
第16週	履歴書作成③(期末テストに向けて)				
第17週	期末テスト 履歴書の作成				
3. 履修上の注意					
筆記用具を持参					
4. 使用教材(テキスト等)					
プリント教材					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容					
6. その他					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	百瀬久美子 / 丸山千波		
科目名	パーティープランニング2	必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	35コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	7月24日(木)まつもと市民芸術館で開催するドレスショーを施行する。企画力、提案力、オペレーション力を身に付け、学生がドレスショーの施行、運営を担当する。学年、学科の垣根を越えてコミュニケーション力を発揮し、全員でドレスショーを成功させる。				
◆概要	2学年合同のチーム編成で、ドレスショーのテーマ・コンセプトを企画し、チームごとにプレゼンテーションを実施、テーマ決定する。その後、各セクションに分かれ、当日まで綿密な計画とスケジュールに添って練習を重ねる。モデルとして、ドレス、タキシードを着用することで、いかに衣裳の価値を高められるか考え、モデルとしての役割を果たす。また観客が楽しめるドレスショーを演出・構成する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	今年度のイベントについて概要説明/前年度のマニュアル・担当確認				
第2週	グループごとに企画、考案、準備				
第3週	グループごとに企画、考案、準備、プレゼン締め切り(4/17予定)				
第4週	グループごとに企画、考案、準備、プレゼン再考・リハ(4/22予定)/プレゼン発表(4/24予定)				
第5週	プレゼン講評/セクション希望届け/トータルビューティ学科顔合わせ				
第6週	企画、準備(各セクションごと)				
第7週	企画、準備(各セクションごと)				
第8週	企画、準備(各セクションごと)				
第9週	中間試験(各セクションの中間プレゼン)、成果報告				
第10週					
第11週	企画、準備(各セクションごと)				
第12週					
第13週	校内リハーサル				
第14週	校内リハーサル、搬入準備				
第15週	期末試験/搬入、会場リハーサル(7/23)、本番(7/24)、搬出				
第16週	振り返り/マニュアル作成				
第17週	マニュアル作成				
第18週	マニュアル作成				
3. 履修上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的、自主的に取り組むこと。また、イベントは全員参加とする。 ・夏季休業中にドレスショーのレポートを作成し、夏季休業明けに提出をする場合がある。レポートも成績評価の対象とする。 ・衣裳、小物(アクセサリや造花、パニエなど)、備品は丁寧に扱い、所定の位置へ返却をすること。 ・備品、ドレスルームの使用法に則り、授業態度・授業姿勢の成績評価に反映する。 ・1年生はドレスショーのモデルとして参加する。ヘア、メイクの練習があるため変則的にトータルビューティ学科の練習に加わる。(授業時間外の可能性もある) ・ヘア、メイクの練習日以外は2年生と共に、担当セクションの企画・運営に携わる。 ・SNS(LINE、Instagram等)は連絡手段の使用に限る。全員で共有、決定する事項に関しては、授業内で直接話し合い、検討を行うこと。 					
4. 使用教材(テキスト等)					
ノートパソコン					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価10% ・授業の取り組み40% ・施行当日の取り組み、完成度50%					
6. その他					
担当者実務経験: シティホテルでブライダルアテンドとして勤務経験があり、認定エグゼクティブインストラクター資格を有する教員とゲストハウスやドレスサロンでドレスコーディネーター兼ウエディングプランナーの経験のある教員が、婚礼イベントに関する進行の組み立て方や、接客術、当日の進行管理・施行方法を、現場での体験や実例を交えて指導を行う科目である。					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	ユニバーサルマナー		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	障害は医学的には「身体が十分に機能しない状態」であるが、社会的には「社会環境が整っていないために社会への完全参加と平等が満たされない状態」と言える。すべての人に公平な情報とサービスを提供するための〈知識〉を学び、誰もがもつ心のバリアを取り除くための〈意識〉と〈気づき〉をもつことが目標である。また、WEB講義を受講し「ユニバーサルマナー3級」を取得する。				
◆概要	「障害者差別解消法」では〈不当な差別的取扱い〉の禁止と〈合理的配慮〉を行うことを法的義務としている。障害の特性(視覚や聴覚の障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害など)により置かれている状態や状況に応じ、必要に応じた個別の〈合理的配慮〉とは何かを追求する。この科目の受講後に自分の役割がより有意義だと心の変化を実感することが学習の目的である。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	ユニバーサルサービス Part1 第1章 ユニバーサルサービスの基本				
第2週	第2章 ユニバーサルサービスに取り組むメリット				
第3週	ユニバーサルサービス Part2 第1章 視覚障害とは				
第4週	第2章 視覚に不自由を感じている方の暮らし				
第5週	第3章 視覚に不自由を感じている方への理解				
第6週	ユニバーサルサービス Part3 第1章 聴覚に不自由を感じていることへの理解				
第7週	第2章 聴覚に不自由を感じている方への接客				
第8週	中間試験				
第9週	ユニバーサルサービス Part4 第1章 肢体に不自由を感じていることへの理解				
第10週	第2章 肢体に不自由を感じている方への接客				
第11週	ユニバーサルサービス Part5 第1章 高齢であること・認知症の傾向があることへの理解				
第12週	第2章 高齢者・認知症のある高齢者への接客・接遇				
第13週	ユニバーサルサービス Part6 第1章 さまざまなお客様への接客・接遇				
第14週	妊婦、お子様連れ、外国人、LGBTQ+				
第15週	知的障害、発達障害、精神障害、言語障害、内部障害				
第16週	「ユニバーサルマナー検定3級」オンライン受験				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
今まで見聞きしてこなかったこと、知ることのなかった物事への関わりには、一步を踏み出す勇気もてず、躊躇してしまうことがある。他者との関わりに自分、あるいは自分の家族の姿を重ね合わせ、相手の立場に同情ではなく共感の気持ちをもって授業に臨むこと。また、演習時は動きやすい服装で参加すること。					
4. 使用教材(テキスト等)					
ユニバーサルサービス基本テキスト(日本能率協会マネジメントセンター)					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 40%					
・課題発表(中間・期末) 50%					
6. その他					
一般社団法人日本ユニバーサルマナー協会認定「ユニバーサルマナー検定3級」をWEB受験(日程は後日授業内で詳細をお知らせします。)					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	Sean A. Leischner		
科目名	実務教養1(英会話)	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ホテルの接客英語のフレーズを覚える。 ゲストが話す英語を聞きとることができる。 臨機応変に英語で対応することができる。				
◆概要	ホテルに来館するゲスト、ホテルマン＝接客のプロと考え、当然ホテルエは英語を話せ、理解できるものと考え話しかけてきます。困っているゲストがいたら、その方の話す言語に関わらず手助けしたいと願うのが真のサービスパーソンです。そのために最低限の英会話フレーズを覚え、英語で対応する努力をし、それを習慣にしてください。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週(4/10)	Introductions and Greetings				
第2週(4/17)	HC Checking In bk1 p16-17				
第3週(4/24)	HHE Difficult Guests p14-17				
第4週(5/8)	HC Checking Out bk2 p18-19				
第5週(5/15)	HHE Problems Checking Out				
第6週(5/22)	HC Making a Room Reservation bk2 p4-5				
第7週(5/29)	HC Confirming a Reservation bk2 p8-9				
第8週(6/5)	HC Responding to Complaints bk3 p14-15				
第9週(6/12)	Mid-Term Test				
第10週(6/19)	HHE Guest Problems p42-45				
第11週(6/26)	HC Housekeeping bk2 p10-11				
第12週(7/3)	HC Room Service bk2 p26-27				
第13週(7/10)	HHE Room Service p78-81				
第14週(8/28①)	HC Concierge bk2 p12-13				
第15週(8/28②)	HHE Recommendations for places to eat p90-93				
第16週(9/4)	Final Test Preparations				
第17週(9/11)	Final Exam				
3. 履修上の注意					
積極的に発言すること					
4. 使用教材(テキスト等)					
Career Paths - Hotels & Catering (Express Publishing)					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・ 出席による評価 15% ・ 授業への取り組み (課題の提出・授業姿勢) 15%					
・ 課題発表 (中間・期末) 70%					
6. その他					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	料飲概論		必修・選択（注記）	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数（予定）	18コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ホテルの料飲部門（レストラン・宴会）では、お客様に料理・飲物を提供する。お客様に満足と感動を与え、認めていただくには、実習で学ぶ技能のほかに、あらゆる食材・飲料・衛生に対する知識を備える。また、ホテル実務技能検定初級・上級、およびレストランサービス技能検定3級の出題範囲であるため、暗記ではなく長期的な知識として身に付ける。				
◆概要	料飲サービススタッフは、日々様々なお客様を迎え接客することから、お客様の質問に適切に説明するために必要な基本的知識や関連・周辺知識を身につけておかなければならない。料理や飲料はその国の気候風土と味覚に合うような形で発展してきたものであるため、母国のそれと性質が異なっても偏見でなく敬意をもって学習する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	【第4節 飲料の種類および特徴】	ワインの分類	ブドウ品種		
第2週	【第4節 飲料の種類および特徴】	フランスのワイン			
第3週	【第4節 飲料の種類および特徴】	フランスのワイン			
第4週	【第4節 飲料の種類および特徴】	ドイツのワイン			
第5週	【第4節 飲料の種類および特徴】	イタリアのワイン			
第6週	【第5節 飲料の種類および特徴】	アメリカのワイン スペインのワイン			
第7週	【第5節 飲料の種類および特徴】	オーストラリアのワイン ニュージーランドのワイン			
第8週	中間試験				
第9週	【第5節 飲料の種類および特徴】	チリのワイン	アルゼンチンのワイン		
第10週	【第5節 飲料の種類および特徴】	日本のワイン			
第11週	【第5節 飲料の種類および特徴】	ワインの管理	酒精強化ワイン 混成ワイン		
第12週	【第5節 飲料の種類および特徴】	ビール			
第13週	【第5節 飲料の種類および特徴】	スピリッツ			
第14週	【第5節 飲料の種類および特徴】	リキュール			
第15週	【第5節 飲料の種類および特徴】	日本酒 焼酎 泡盛			
第16週	【第5節 飲料の種類および特徴】	コーヒー			
第17週	【第5節 飲料の種類および特徴】	紅茶			
第18週	期末試験				
3. 履修上の注意					
香りのデグスタションを行う。（酒類の試飲はありません。）					
4. 使用教材（テキスト等）					
西洋料理 料飲接客サービス技法					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢） 15%					
・課題発表（中間・期末） 70%					
6. その他					
担当者実務経験：五つ星ホテルでソムリエ・日本酒唎酒師・和洋サービスの経験のある教員が、飲料の概要・歴史・醸造及び蒸留方法やメニュー解説などの具体的内容を現場での体験や事例を交えて指導する科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	レストランサービス実習1・2		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	実習室403	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	1、正しい接客マナーができる。2、正しいテーブルサービスができる。(①客席案内、②オーダーテイク、③客席での販売促進、④オーダーを通す、⑤伝票処理、⑥種類に応じたテーブルセッティング、⑦料理・飲料の種類に応じたテーブルセット、⑧料理・飲料の運搬、⑨料理・飲料の種類に応じたサービス、⑩食器類の後片付け、⑪突発事態の対処、⑫テーブルバッシング)				
◆概要	料飲サービス時の足の位置や手の出し方など、身体的動作に技術が備わっていてこそお客様に安心と信頼を感じてもらえ、満足していただける。状況に応じて優先順位を変更するなど、切羽詰まった状況に置かれたときに、基本動作を身につけていることで適切な判断ができ、効率のよい仕事に結びつく。自らのサービスが商品であることをこの授業で学んでいく。				
2. 授業内容(週単位で記入)					
第1週	レストランサービス技能検定とは 実習室の使用及び清掃方法 制服の着用方法の説明				
第2週	【接客の基本】身だしなみ 立ち姿(立位置)着席補助【レストラン部門の組織】				
第3週	【什器備品の知識】1 銀器類の取り扱い、陶磁器類のプレートサービス				
第4週	【什器備品の知識】2 グラス器類のトレイサービス				
第5週	【リネン備品の知識】リネン類 ナプキンの折り方				
第6週	【テーブル・クロスの設定】 アンダー・クロス、テーブル・クロス、トップ・クロスのかけ方				
第7週	【テーブル・セッティング】朝食 コンチネンタル、アメリカン・ブレイクファスト				
第8週	中間試験				
第9週	【プレートサービス】1 基本の持ち方、2枚持ち、3枚持ち				
第10週	【プレートサービス】2 提供の仕方、下げ方1、下げ方2(カトラリー込み)				
第11週	【サーバーの使い方】サーバー練習(西洋式、日本式)、パンのサービス、ケーキのサービス				
第12週	【プラッターサービス】1 イギリス式サービス、フランス式サービス				
第13週	【プラッターサービス】2 ロシア式サービス、ソースのかけ方				
第14週	【水のサービス】【コーヒーサービス】 ウォーターピッチャー、コーヒーポットの注ぎ方				
第15週	【デセールサービス】【トレイによるサービス】 ダストパンの使い方、コーヒー・紅茶の提供方法				
第16週	【スープのサービス】【トレイによるサービス】 スープレードルの使い方、ブイヨンスープの提供方法				
第17週	期末試験1				
3. 履修上の注意					
制服を正しく着用すること。(肩にかかる長さの髪は後ろで束ねお団子にし、シニヨンに入れ込む。白ワイシャツは汚れに留意し綺麗なものを着用する。ネクタイ、ベスト、タブリエは授業開始時間前までに完璧に整えてから授業に参加する。)授業終了前10分は片づけ、清掃業務にあてる。当番はチェック表にサインし、翌日の洗濯物の取り込み作業も評価対象とする。また、レストラン業務はチームワークが必須であることから、協調性をもって授業に取り組む姿勢が必要である。					
4. 使用教材(テキスト等)					
なし					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)70%					
・中間・期末試験状況 20%					
6. その他					
実習に使用する備品(グラス・食器など)を破損した場合は、始末書の提出が必要になる。					
担当者実務経験:五つ星ホテルのメインダイニング・サービススタッフ、海外・都内でレストランサービスの経験がある教員が、基本動作を正しく身に付けさせながら、現場での体験や事例を交えて技術指導をする科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	総合実習1(TOEIC対策)		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	総合演習1では、まずTOEIC試験(リスニング45分・リーディング75分)に耐え、効果的・効率的にスコアアップが図れるよう問題に対する理解を深める。入学当初のTOEICスコアを測定し、個々のレベルを100スコア上げる。(総合演習2まで履修した後の目標) また、英語音声は発音できないと聞き取れないため発音練習を徹底して行う。				
◆概要	TOEICは英語圏で国際コミュニケーションをする上で必要な英語力を測定するための試験で、進学・就職・転職・昇進・留学など様々な場面での判断基準として適用されている。試験はリスニングとリーディングの2つのセクションで構成され、どちらも単語の基礎がないと聞き取れないため、TOEIC頻出単語を徹底的に学習し、発声学に基づいて発音練習を行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	TOEICとは 単語帳の使い方について 英語レベルチェックテスト、発音記号の読み方				
第2週	●単語チェック、TOEICサンプルテスト、自己採点				
第3週	●単語テスト ◎TOEIC Part.1 & Part.5				
第4週	●単語テスト ◎TOEIC Part.1 & Part.5				
第5週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第6週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第7週	中間試験: TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第8週	中間試験: TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
第9週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第10週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.5				
第11週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.6				
第12週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.6				
第13週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第14週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第15週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第16週	期末試験: TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第17週	期末試験: TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
3. 履修上の注意					
TOEICスコアを測定するため、総合演習1の第2週目にサンプル問題による試験を実施する。また、総合演習2の終了時、総合演習4の終了時にそれぞれ以下の要領で試験を受験する。希望者が10名以上の場合は、TOEIC・IPテストを校内で実施し、スコアを測定する。(¥4,155+施設運営費)					
4. 使用教材(テキスト等)					
プリント使用、TOEICTEST必ずでる単 スピードマスター<Jリサーチ出版>968円(自費)					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	丸山 千波
科目名	ドレスコーディネート1	必修・選択	選択必修
単位数	1単位	授業形態	講義・演習
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	ドレスコーディネーターに必要な婚礼衣裳に関する歴史と基礎知識、専門的用語、実践的技術を学ぶ。 WBJ「認定ドレスコーディネーター」検定の合格を目指す。		
◆概要	婚礼衣裳に関わるプロとして、洋装・和装の専門知識、実践的な実技を習得する。ドレスコーディネーターと関連が深い、美容・花についても関心を深め学習し、衣裳業務のノウハウを身に付ける。		
2. 授業内容（週単位で記入）			
第1週	概要説明/第1章 衣裳に関わるスペシャリスト、婚礼衣裳業界について、ドレスコード		
第2週			
第3週			
第4週	第2章 新婦の衣裳(洋装) 歴史、デザイン、各名称、サイズ、素材、小物、ブーケ		
第5週			
第6週			
第7週			
第8週	第9週 中間試験		
第10週			
第11週			
第12週	第6章 ドレスコーディネーターの実務 トータルコーディネート、衣裳のアドバイス、補正、採寸、フィッティング		
第13週			
第14週			
第15週			
第16週	第17週 期末試験		
第17週			
3. 履修上の注意			
<ul style="list-style-type: none"> ・WBJ「認定ドレスコーディネーター」検定に向け、履修項目の復習を必ず行うこと。 ・実習での衣裳・小物の取り扱いには丁寧に行う。 ・ドレスルームの使用方法に則り、授業態度・授業姿勢の評価に反映する。 			
4. 使用教材(テキスト等)			
日本のドレスコーディネーター育成プログラム、ノートパソコン、ブライダル情報雑誌			
5. 単位認定評価方法			
評価基準：絶対評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席による評価：10% ・授業への取り組み(課題提出・授業姿勢)40% ・中間試験、期末試験による評価：50% 			
6. その他			
担当者実務経験：専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウエディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウエディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。			

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル		担当者	小林千尋	
科目名	キャリアプランニング2		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	キャリアプランニング1での基礎に基づき、希望する業種・職種で職を得る。				
◆概要	キャリアプランニング1の内容をフォローしつつ、再度確認したゴールを目指す。効果的で適正な就職活動を行うべく実務的な準備(履歴書作成、志望動機・自己PRの作成など)と、広い意味でのキャリア教育(職業観、ライフワークバランス、仕事と法律など)を学び、一緒に考える。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	前期末テストを振り返って(志望動機・自己PRを推敲)				
第2週	一般常識				
第3週	時事問題				
第4週	SPI				
第5週	SPI				
第6週	ビジネスマナー①				
第7週	ビジネスマナー②				
第8週	ビジネスマナー③				
第9週	中間テスト				
第10週	電話対応①				
第11週	電話対応②				
第12週	面接①				
第13週	面接②				
第14週	本番を意識した履歴書の作成(就職ラリー)				
第15週	企業リサーチ				
第16週	就活手帳の活用方法、送付状作成、封筒の宛名書き				
第17週	期末テスト(求職票の作成)				
3. 履修上の注意					
筆記用具を持参					
4. 使用教材(テキスト等)					
プリント教材					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容					
6. その他					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	竹内 遥	
科目名	衛生学		必修・選択（注 記）	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数（予 定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	食品衛生、公衆衛生、安全衛生に関する知識と技術を習得し、基本的な仕組みを理解し適切な衛生管理を行う能力を身に付ける。				
◆概要	飲食店で食品衛生を十分に行うために食品取扱者は、多数の消費者への健康を支配する食品を取り扱っているということを自覚し、非衛生的な取扱いによって人々の生命の危険を与えるおそれがあることを認識し、食品衛生に関する知識を十分に持ち、衛生的な取り扱いについて学ぶ。また、公衆衛生の意義、「労働安全衛生法」をもとに安全衛生についても学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	食品衛生・衛生行政				
第2週	食中毒予防・個人と集団の衛生				
第3週	食中毒発生の推移と統計				
第4週	細菌性食中毒①				
第5週	細菌性食中毒②				
第6週	細菌性食中毒③				
第7週	ウイルス性食中毒・自然毒				
第8週	寄生虫				
第9週	中間試験				
第10週	衛生害虫 腐敗と変敗				
第11週	食品の保存 殺菌				
第12週	環境衛生・HACCPについて				
第13週	感染症				
第14週	食品衛生法について				
第15週	労働災害				
第16週	労働安全衛生法				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
4. 使用教材（テキスト等） 西洋料理 料飲接客サービス技法〈日本ホテル・レストランサービス技能協会〉					
5. 単位認定評価方法 評価基準：絶対評価 ・試験90％ ・授業態度10％					
6. その他					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	清水 恵美		
科目名	情報リテラシー3,4	必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	1
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	マイクロソフトEXCELでビジネス資料等の作成ができる 日本情報処理検定協会主催の「表計算検定2級」以上の検定に合格する				
◆概要	表計算検定の問題を解きながら、効率的なデータ入力、ワークシート編集、関数を利用した計算式の入力、グラフ作成等について習得する。2月に個々の習熟度に応じた級の検定を受験する。なお、12月の検定は希望受験とする。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	検定問題対策・問題演習				
第2週	検定問題対策・問題演習				
第3週	検定問題対策・問題演習				
第4週	表計算検定3級の問題解法 問題演習				
第5週	表計算検定3級の問題解法 問題演習				
第6週	表計算検定3級の問題解法 問題演習				
第7週	表計算検定準2級の問題解法 問題演習				
第8週	表計算検定準2級の問題解法 問題演習				
第9週	表計算検定2級の問題解法 問題演習				
第10週	情報リテラシー3 期末試験 表計算検定準2級程度の問題				
第11週	表計算検定2級程度の問題解法 個別問題演習				
第12週	表計算検定準1級の問題解法 問題演習				
第13週	表計算検定1級の問題解法 問題演習				
第14週	表計算検定1級の問題解法 問題演習				
第15週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				

第16週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第17週	表計算検定（情報リテラシー4 期末試験兼ねる）
3. 履修上の注意	
<p>授業課題の提出あり(MITファイルサーバへ)。 欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する。 課題が期日までに提出しない場合、基準に満たない場合は、単位不認定となる場合がある。 授業に出席していても、私語や居眠りが多い場合はその時間を欠席とみなすことがある。</p>	
4. 使用教材(テキスト等)	
<p>マイクロソフトExcel使用 授業配布プリント 検定過去問題のプリント</p>	
5. 単位認定評価方法	
<p>評価基準:絶対評価 授業態度20%、中間・期末試験50%、課題・小テスト30% ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動する。</p>	
6. その他	
<p>※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある</p>	

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	清水
科目名	メディアデザイン	必修・選択(注記)	選択必修
単位数	1単位	授業形態	演習
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	画像・動画についての基本的な知識が身につく。 動画編集ソフトAviUtlを使って動画の作成・編集ができる。 基本的な動画制作の工程を理解し、流れにそってオリジナル作品が制作できる。		
◆概要	画像・動画についての基本的な知識を習得する。動画編集ソフトAviUtlで基本的な動画編集方法、メイキングビデオ等の制作工程を習得する。最後にオリジナルムービーを制作し発表する。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	AviUtlアプリのインストールと設定		
第2週	AviUtlの基本操作1 課題演習		
第3週	AviUtlの基本操作2 フィルタの適用、ファイルの出力と保存 課題演習		
第4週	AviUtlの拡張編集1 オブジェクトの編集		
第5週	AviUtlの拡張編集2 オブジェクトの編集		
第6週	AviUtlの拡張編集3 Pluginを利用した編集		
第7週	AviUtlの拡張編集4 Pluginを利用した編集		
第8週	AviUtlの拡張編集5 テキストオブジェクトの配置		
第9週	AviUtlの拡張編集6 テキストオブジェクトの配置		
第10週	AviUtlの拡張編集7 AviUtlの上級機能		
第11週	オリジナルムービー制作		
第12週	オリジナルムービー制作		
第13週	オリジナルムービー制作		
第14週	オリジナルムービー制作		
第15週	オリジナルムービー制作		
第16週	オリジナルムービー制作		
第17週	期末試験は以下により評価 オリジナルムービーの発表		
3. 履修上の注意			
動画編集ソフトとしてAviUtlを使用する。期末以外にも課題制作を行う。課題は必ず提出すること。欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を出すこともある。未提出の場合は、単位不認定とする事がある。			
4. 使用教材(テキスト等)			
『AviUtl動画編集実践ガイドブック』(技術評論社) 課題プリント			
5. 単位認定評価方法			
評価基準:絶対評価 授業態度20%、期末課題40%、課題20% ただし、課題提出状況や出席状況に応じて評価は変動する。			

6. その他

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	Sean A. Leischner		
科目名	実務教養2(英会話)	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ホテルの接客英語のフレーズを覚える。 ゲストが話す英語を聞きとることができる。 臨機応変に英語で対応することができる。				
◆概要	ホテルに来館するゲスト、ホテルマン＝接客のプロと考え、当然ホテリエは英語を話せ、理解できるものと考え話しかけてきます。困っているゲストがいたら、その方の話す言語に関わらず手助けしたいと願うのが真のサービスパーソンです。そのために最低限の英会話フレーズを覚え、英語で対応する努力をし、それを習慣にしてください。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週 (9/25)	HC Greeting and Seating Guests bk2 p20-21				
第2週 (10/2)	HC Explaining the Menu bk2 p22-23				
第3週 (10/9)	HC Taking Orders bk2 p24-25				
第4週 (10/16)	HC Making Suggestions bk3 p20-21/ HC Problems...Dining Room bk3 p22-23				
第5週 (10/29)	HHE In the restaurant 2 & 3 p62-68				
第6週 (11/6)	HC At the Bar bk1 p24-25/ HHE At the Bar p50-53				
第7週 (11/13)	Mid-Term Test Prep				
第8週 (11/20)	Mid-Term				
第9週 (11/27)	HHE Complaints from Guests at the Bar p54-57				
第10週 (12/4)	HC Breakfast Service bk1 p22-23				
第11週 (12/11)	HHE At Breakfast p46-49				
第12週 (12/18)	HC Taking a Reservation bk1 p20-21				
第13週 (1/8)	HC Broken bk3 p12-13				
第14週 (1/15)	HHE Housekeeping problems p74-77				
第15週 (1/22)	Make Up Class				
第16週 (2/5)	Final Test preparation				
第17週 (2/12)	Final Test				
3. 履修上の注意					
積極的に発言すること					
4. 使用教材(テキスト等)					
Career Paths - Hotels & Catering (Express Publishing)					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子(実務経験者)	
科目名	レストランサービス実習3・4		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	実習室403	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	1、正しい接客マナーができる。2、正しいテーブルサービスができる。(①客席案内、②オーダーテイク、③客席での販売促進、④オーダーを通す、⑤伝票処理、⑥種類に応じたテーブルセッティング、⑦料理・飲料の種類に応じたテーブルセット、⑧料理・飲料の運搬、⑨料理・飲料の種類に応じたサービス、⑩食器類の後片付け、⑪突発事態の対処、⑫テーブルバッシング)				
◆概要	料飲サービス時の足の位置や手の出し方など、身体的動作に技術が備わっていてこそお客様に安心と信頼を感じてもらえ、満足していただける。状況に応じて優先順位を変更するなど、切羽詰まった状況に置かれたときに、基本動作を身につけていることで適切な判断ができ、効率のよい仕事に結びつく。自らのサービスが商品であることをこの授業で学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	【朝食サービス】1 サーバー制度概要、役割分担				
第2週	【朝食サービス】2 セッティング				
第3週	【朝食サービス】3 オーダーの受け方、確認方法、伝票の書き方				
第4週	【朝食サービス】4 1テーブル ソムリエナイフの構造				
第5週	【朝食サービス】5 1テーブル スティルワイン抜栓				
第6週	【朝食サービス】6 2テーブル スパークリングワイン抜栓				
第7週	【朝食サービス】7 2テーブル ワインサーブ(ホストテイस्टィング)				
第8週	中間試験				
第9週	【ランチサービス】1 ランチメニュー概要、セッティング、オーダーテイク				
第10週	【ランチサービス】2 1テーブル				
第11週	【ランチサービス】3 2テーブル				
第12週	【ランチサービス】4 3テーブル				
第13週	【ランチサービス】5 3テーブル				
第14週	【ランチサービス】6 4テーブル				
第15週	【ランチサービス】7 4テーブル				
第16週	【ランチサービス】8 4テーブル				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
制服を正しく着用すること。(肩にかかる長さの髪は後ろで束ねお団子にし、シニヨンに入れ込む。白ワイシャツは汚れに留意し綺麗なものを着用する。ネクタイ、ベスト、タブリエは授業開始時間前までに完璧に整えてから授業に参加する。)授業終了前10分は片づけ、清掃業務にあてる。当番はチェック表にサインし、翌日の洗濯物の取り込み作業も評価対象とする。また、レストラン業務はチームワークが必須であることから、協調性をもって授業に取り組む姿勢が必要である。					
4. 使用教材(テキスト等)					
なし					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)70%					
・中間・期末試験状況 20%					
6. その他					
実習に使用する備品(グラス・食器など)を破損した場合は、始末書の提出が必要になる。					
担当者実務経験：五つ星ホテルのメインダイニング・サービススタッフ、海外・都内でレストランサービスの経験がある教員が、基本動作を正しく身に付けさせながら、現場での体験や事例を交えて技術指導をする科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	丸山 千波
科目名	ブライダルプランナー演習1	必修・選択	選択必修
単位数	2単位	授業形態	講義・演習
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	1年前期に学習したブライダルの歴史、習慣、儀式、用語を理解した上で、ウェディングプランナーの業務、実務、役割を習得する。BWJ「認定ウェディングプランナー」の試験合格を目指す。		
◆概要	ブライダル業界の基礎、ウェディングプランナーに必要な知識、実践的なスキルを身に付けると共に、多様化するブライダル業界の現状を知り、関心を深める。		
2. 授業内容（週単位で記入）			
第1週	第7章 新規接客業務/コンセプトウェディングの提案		
第2週			
第3週			
第4週	第8章 婚礼施行・進行管理業務		
第5週			
第6週			
第7週			
第8週			
第9週	中間試験		
第10週	第9章 婚礼施行・進行管理業務		
第11週			
第12週	第10章 販売促進		
第13週			
第14週	時事問題/試験対策		
第15週	模擬試験		
第16週	検定対策		
第17週	期末試験 / WBJ「認定ウェディングプランナー検定」実施		
3. 履修上の注意			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習に入る前に各自、第1章～第5章の復習を必ず行っておくこと。 ・検定試験の日程については変更になる可能性があり、補講期間に実施する場合がある。については、自主的に学習すること。 			
4. 使用教材(テキスト等)			
日本のウェディングプランナー育成プログラム			
5. 単位認定評価方法			
評価基準:絶対評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席による評価:10% ・授業への取り組み(課題提出・授業姿勢)40% ・中間試験、期末試験による評価:50% 			
6. その他			
担当者実務経験:専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウェディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウェディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。			

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	丸山 千波		
科目名	ブライダルプランニング2	必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	2月予定の挙式実習に向けて企画、プレゼン、準備、練習、施行を実施する。企画、提案力の向上と施行運営の能力を身に付け、リアルウェディングを成功させる。				
◆概要	リアルウェディングの施行に向けて、企画、お打ち合わせ、施行・運営まで全てにおいて学生が携わる。 結婚式に関わる各スペシャリストの存在を理解、把握する。準備、練習は各セクションごとチームとなり、制作物や提出物のスケジュール管理徹底、企画、提案を遂行させる。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	挙式実習について概要説明/新郎新婦について/注意事項等 昨年の担当セクションと実施内容の共有				
第2週	グループワーク(テーマ、進行、演出等)				
第3週	グループごとにプレゼンテーション				
第4週	グループワーク(内容再考)				
第5週	グループごとにプレゼンテーション				
第6週	グループワーク、挙式練習				
第7週	グループワーク、挙式練習				
第8週	グループワーク、挙式練習				
第9週	グループワーク、挙式練習				
第10週	グループワーク、挙式練習				
第11週	グループワーク、挙式練習				
第12週	グループワーク、挙式練習				
第13週	グループワーク、挙式練習				
第14週	グループワーク、挙式練習				
第15週	リハーサル、挙式施行				
第16週	反省会				
第17週	マニュアル作成				
3. 履修上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・2学年合同の授業とし、挙式・披露宴の施行は学生全員が参加すること。 ・1、2年生でグループを組み、グループワークやプレゼンを実施する。自主的かつ積極的に取り組むこと。 ・施行経験のある2年生が主体となり、1年生をリード・サポートする。1年生も積極的に参加をする。 ・制作物は2年生の卒業研究と関連、並行して行うため、授業の都度、経過報告を実施する。 ・グループワークを基本とするため授業時間内で企画や制作を行うが、授業時間内で取り組みなかった場合、授業時間外(SHR前、放課後)に準備、練習に取り組む場合もある。 ・SNS(LINE、Instagram等)は連絡手段の使用に限る。全員で共有、決定する事項に関しては、授業内で直接話し合い、検討を行うこと。 					
4. 使用教材(テキスト等)					
ノートパソコン					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席による評価：10% ・授業への取り組み(課題提出・授業姿勢)40% ・中間試験、期末試験による評価：50% 					
6. その他					
担当者実務経験：専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウェディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウェディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	百瀬 久美子
科目名	ホテル総合演習1・2	必修・選択(注記)	選択必修
単位数	1単位	授業形態	講義・演習
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	ホテルで働くどの職種でも、年齢・性別・障害の有無に関わらず、あらゆるお客様の役に立ちたい、喜ばせたい、楽しませたいという気持ちがホテルエに必要資質であることを理解する。		
◆概要	2年次に受験するホテル実務技能認定試験上級の試験範囲は、宿泊部門・料飲部門・施設設備メンテナンス部門・営業部門などのホテル業における幅広い専門分野知識、および語学力にまで多岐に渡る。また、テキストに記載されていないホテル業界および関連業界(旅行・観光)の動向についての出題もあるため、関連する時事問題にも注目し演習をすすめる。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	ホテルで働くとは	1、ホテルスタッフの心得	
第2週	2、ホテルの種類と組織	3、ホテルの歴史(世界)	
第3週	3、ホテルの歴史(日本)		
第4週	4、旅館業法と国際観光ホテル整備法		
第5週	11、国際的な社交マナー(プロトコル)(ドレスコード)		
第6週	11、国際的な社交マナー(席次)(国旗掲揚)		
第7週	12、外国人との会話	13、危機管理	
第8週	中間試験		
第9週	【フロント・オフィス編】 フロントオフィスとは、客室のタイプと料金		
第10週	【フロント・オフィス編】 リザーベーション業務		
第11週	【フロント・オフィス編】 レセプション業務		
第12週	【フロント・オフィス編】 フロント・キャッシャー		
第13週	【フロント・オフィス編】 インフォメーション業務、防犯業務、モデル宿泊約款		
第14週	【フロント・サービス編】 宿泊部門の業務、ドアマン		
第15週	【フロント・サービス編】 ベルマン、クローク、コンシェルジュ		
第16週	【フロント・サービス編】 客室部門(ハウスキーピング)		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
4. 使用教材(テキスト等)			
ホテルテキスト「ホテル業務関連知識」・「宿泊Ⅰフロント・オフィス編」・「宿泊Ⅱフロント・サービス編」(ウイネット)			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価			
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%			
・課題発表(中間・期末) 70%			
6. その他			
担当者実務経験: 都内五つ星ホテルの料飲部門、宴会部門、客室部門などで勤務経験がある教員が、ホテル全般の知識について現場での体験や事例を交えて指導する科目である。			

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子(実務経験者)	
科目名	サービス論1		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	平成14年に厚生労働省大臣より職業能力開発促進法に基づく「レストランサービス技能士」の指定試験機関の指定を受けた『日本ホテル・レストランサービス技能協会』主催のレストランサービス技能3級試験(国家資格)の筆記試験の合格を目標とする。(尚、実技試験の受験資格は同筆記試験合格後に得られ、その対策授業は後期の『料飲サービス1・2』で実施する。)				
◆概要	「レストランサービス技能検定」を受検するためには、各等級毎に所定の実務経験年数が必要となるが、3級については実務経験年数のない専門学校の在校生で卒業する見込みのある者も受検できるよう例外的な措置として承認校制度が設けられ、未来ビジネスカレッジはその承認校である。在学中に国家資格を取得することはサービス業界でも高い評価を得られる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	【第1章 食材・飲料等の基礎知識】	第1節：食品			
第2週		第1節：食品			
第3週		第2節：西洋料理に使用される主な食材			
第4週		第2節：西洋料理に使用される主な食材			
第5週		第3節：調理法 第5節：メニュー			
第6週	【第3章 宴会とレストランサービス】	第12節：食事の国際習慣			
第7週		第12節：食事の国際習慣			
第8週	中間試験				
第9週	【第4章 食文化】				
第10週		第1節：食文化史と現状の食環境			
第11週		第2節：食文化と食事作法(テーブルマナー)			
第12週		第3節：西洋料理の変遷			
第13週	【第5章 施設管理】	第1節：施設の知識			
第14週		第2節：防災、第2節：設備の維持管理			
第15週	【第6章 苦情対応と遺失物の取り扱い】				
第16週	総復習				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
4. 使用教材(テキスト等)					
西洋料理 料飲接客サービス技法					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
担当者実務経験：都内五つ星ホテルの料飲部門、宴会部門、客室部門などで勤務経験がある教員が、ホテル全般の知識について現場での体験や事例を交えて指導する科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	総合実習2(TOEIC対策)		必修・選択(注 記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数(予 定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	総合演習2でも、まずTOEIC試験(リスニング45分・リーディング75分)に耐え、効果的・効率的にスコアアップが図れるよう問題に対する理解を深める。入学当初のTOEICスコアを測定し、個々のレベルを100点上げる。(総合演習2まで履修した後の目標)また、英語音声は発音できないとうまく聞き取れないため発音練習を徹底して行う。				
◆概要	TOEICは英語圏で国際コミュニケーションをする上で必要な英語力を測定するための試験で、進学・就職・転職・昇進・留学など様々な場面での判断基準として適用されている。試験はリスニングとリーディングの2つのセクションで構成され、どちらも単語の基礎がないとうまく解くことはできないため、TOEIC頻出単語を徹底的に学習し、発声学に基づいて発音練習を行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	TOEICとは 単語帳の使い方について 英語レベルチェックテスト				
第2週	●単語チェック、TOEICサンプルテスト、自己採点				
第3週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 1 & Part. 5				
第4週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 1 & Part. 5				
第5週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第6週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第7週	中間試験：TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第8週	中間試験：TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
第9週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第10週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 5				
第11週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 6				
第12週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 6				
第13週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 4 & Part. 7				
第14週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 4 & Part. 7				
第15週	期末試験：TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第16週	期末試験：TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
3. 履修上の注意					
TOEICスコアを測定するため、総合演習1の第2週目にサンプル問題による試験を実施する。また、総合演習2の終了時、総合演習4の終了時にそれぞれ以下の要領で試験を受験する。希望者が10名以上の場合は、TOEIC・IPテストを校内で実施し、スコアを測定する。(¥4,155+施設運営費)					
4. 使用教材(テキスト等)					
プリント使用、TOEICTEST必ずでる単 スピードマスター<Jリサーチ出版>968円(自費)					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
選択授業のテキスト代金は補助活動費から精算せず、受講希望者より後日徴収します。(詳細後日) 総合演習1を履修していない学生も総合演習2から受講が可能。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	百瀬 久美子		
科目名	総合演習 1	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校				
◆概要	クラス担任の指導によりホームルーム活動を行います。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習				
～	学生の手引き、学生生活ルールの確認				
第38週	クラス、学校行事及び計画 等				
3. 履修上の注意					
出席時間数等は授業内で指示します。					
4. 使用教材(テキスト等)					
学生の手引き等					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価					
出席時間、取り組みにより評価					
6. その他					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	サービス論2		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	平成14年に厚生労働省大臣より職業能力開発促進法に基づく「レストランサービス技能士」の指定試験機関の指定を受けた『日本ホテル・レストランサービス技能協会』主催のレストランサービス技能3級試験(国家資格)の筆記試験の合格を目標とする。(尚、実技試験の受験資格は同筆記試験合格後に得られ、その対策授業は後期の『料飲サービス1・2』で実施する。)				
◆概要	「レストランサービス技能検定」を受検するためには、各等級毎に所定の実務経験年数が必要となるが、3級については実務経験年数のない専門学校の在校生で卒業する見込みのある者も受検できるよう例外的な措置として承認校制度が設けられ、未来ビジネスカレッジはその承認校である。在学中に国家資格を取得することはサービス業界でも高い評価を得られる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第2週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第3週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第4週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第5週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第6週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第7週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第8週	中間試験				
第9週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第10週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第11週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第12週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第13週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第14週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第15週	HRS実技試験について HRS実技試験対策				
第16週	HRS実技試験対策				
第17週	HRS実技試験対策				
3. 履修上の注意					
レストランサービス技能検定筆記試験は8月上旬、名古屋の会場で受験します。					
4. 使用教材(テキスト等)					
西洋料理 料飲接客サービス技法<日本ホテル・レストランサービス技能協会> 過去問題はコピーを配布する。					過
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
担当者実務経験: 都内五つ星ホテルの料飲部門、宴会部門、客室部門などで勤務経験がある教員が、ホテル全般の知識について現場での体験や事例を交えて指導する科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	田中 優子		
科目名	情報リテラシー5	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期前半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	マイクロソフトのPowerPointでプレゼンテーション用のスライドが作成できる 作成したスライドを使ってプレゼンテーション(発表)ができる 日本情報処理検定協会主催の「プレゼンテーション検定2級」以上の検定に合格する				
◆概要	プレゼンテーション検定の問題を解きながら、PowerPointの基本的な操作・スライド作成方法を習得する。プレゼンテーション検定1級または2級(習熟度により受験級を選択)を受験する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	IPアドレスの設定 PowerPointの初期設定、基本的な使い方				
第2週	IPアドレスの設定 PowerPointの初期設定、基本的な使い方				
第3週	プレゼンテーション検定3級程度の問題解法				
第4週	プレゼンテーション検定3級程度の問題解法				
第5週	プレゼンテーション検定2級程度の問題解法				
第6週	プレゼンテーション検定2級程度の問題解法				
第7週	プレゼンテーション検定2級程度の問題演習				
第8週	プレゼンテーション検定2級程度の問題演習				
第9週	プレゼンテーション検定2級程度の問題演習				
第10週	プレゼンテーション検定2級程度の問題演習				
第11週	プレゼンテーション検定1級程度の問題解法				
第12週	プレゼンテーション検定1級程度の問題解法				
第13週	プレゼンテーション検定1級程度の問題演習				
第14週	プレゼンテーション検定1級程度の問題演習				
第15週	プレゼンテーション検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第16週	プレゼンテーション検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第17週	期末試験 プレゼンテーション2級程度の問題				
3. 履修上の注意					
PowerPointを使用する 毎授業ごとに課題の提出あり(MITファイルサーバへ) 欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する					
4. 使用教材(テキスト等)					
授業配布プリント 検定過去問題のプリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 授業態度20%、試験・検定50%、課題・小テスト30%					

ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動する。

6. その他

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	清水
科目名	メディアデザイン	必修・選択(注記)	選択必修
単位数	1単位	授業形態	演習
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	画像・動画についての基本的な知識が身につく。 動画編集ソフトAviUtlを使って動画の作成・編集ができる。 基本的な動画制作の工程を理解し、流れにそってオリジナル作品が制作できる。		
◆概要	画像・動画についての基本的な知識を習得する。動画編集ソフトAviUtlで基本的な動画編集方法、メイキングビデオ等の制作工程を習得する。最後にオリジナルムービーを制作し発表する。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	AviUtlアプリのインストールと設定		
第2週	AviUtlの基本操作1 課題演習		
第3週	AviUtlの基本操作2 フィルタの適用、ファイルの出力と保存 課題演習		
第4週	AviUtlの拡張編集1 オブジェクトの編集		
第5週	AviUtlの拡張編集2 オブジェクトの編集		
第6週	AviUtlの拡張編集3 Pluginを利用した編集		
第7週	AviUtlの拡張編集4 Pluginを利用した編集		
第8週	AviUtlの拡張編集5 テキストオブジェクトの配置		
第9週	AviUtlの拡張編集6 テキストオブジェクトの配置		
第10週	AviUtlの拡張編集7 AviUtlの上級機能		
第11週	オリジナルムービー制作		
第12週	オリジナルムービー制作		
第13週	オリジナルムービー制作		
第14週	オリジナルムービー制作		
第15週	オリジナルムービー制作		
第16週	オリジナルムービー制作		
第17週	期末試験は以下により評価 オリジナルムービーの発表		
3. 履修上の注意			
動画編集ソフトとしてAviUtlを使用する。期末以外にも課題制作を行う。課題は必ず提出すること。欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を出すこともある。未提出の場合は、単位不認定とする事がある。			
4. 使用教材(テキスト等)			
『AviUtl動画編集実践ガイドブック』(技術評論社) 課題プリント			
5. 単位認定評価方法			
評価基準:絶対評価 授業態度20%、期末課題40%、課題20% ただし、課題提出状況や出席状況に応じて評価は変動する。			

6. その他

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	清水	
科目名	カラーコーディネート1		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	配色の基本、色もたらす心理的効果、生活の中での色もたらす効果などを学び、色のコーディネートの仕方や日常における色の活用方法を理解する。 色彩検定3級に合格する。				
◆概要	色のはたらきや性質、「色」の表し方や混色理論などの基礎知識、色もたらす心理的効果、カラーコーディネートの基礎を学ぶ。配色(色の組み合わせ)については、主に「PCCS」(色彩体系の一つ)をもとに学んでいく。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	色彩心理 色のはたらき、光と色(光とは)				
第2週	色彩心理 光と色(光の性質、眼のしくみ)				
第3週	色彩心理 光と色(眼のしくみ、照明)				
第4週	色彩心理 光と色(混色)				
第5週	色彩心理 色の表示(色の分類と三属性)				
第6週	色の表示(色の分類と三属性)、当色相面と色立体				
第7週	色の表示(PCCS)				
第8週	色の表示(PCCS) PCCSカラーダイヤル作成				
第9週	中間試験 色彩心理(色の心理的効果)				
第10週	色彩心理(色の心理的効果)				
第11週	色彩心理(色の心理的効果)				
第12週	色彩調和(色相から配色を考える)				
第13週	色彩調和(色相から配色を考える)				
第14週	色彩調和(トーンから配色を考える)				
第15週	色彩調和(色相とトーンを組み合わせる)				

第16週	色彩調和(配色の基本技法) 配色イメージ
第17週	期末試験
3. 履修上の注意	
<p>課題が期日までに提出できない場合、基準に満たない場合は、単位不認定となる場合がある。 授業に出席していても、私語や居眠りが多い場合はその時間を欠席とみなすことがある。</p>	
4. 使用教材(テキスト等)	
<p>『色彩検定公式テキスト3級編』 新配色カード 12色程度の色鉛筆 はさみ のり</p>	
5. 単位認定評価方法	
<p>評価基準: 絶対評価 授業態度 20%、中間・期末試験 50%、課題・小テスト 30% ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動する。</p>	
6. その他	

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	ホテル総合演習3		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	1年次に履修した『ホテル総合演習1・2』で習得した宿泊部門の知識を基に、料飲部門の知識を深め、ホテル実務技能認定試験上級の合格を目指す。				
◆概要	ホテル実務技能認定試験上級の試験範囲は、宿泊部門・料飲部門・施設設備メンテナンス部門・営業部門などのホテル業における幅広い専門分野知識、および語学力にまで多岐に渡る。また、テキストに記載されていないホテル業界および関連業界(旅行・観光)の動向についての出題もあるため、関連する時事問題にも注目し演習をすすめる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	【料飲Ⅱバー・ラウンジ編】 第1章 バー・ラウンジの概要				
第2週	第2章 酒の基礎知識(定義、蒸留酒、醸造酒、混成酒)				
第3週					
第4週	第3章 カクテルの知識(概要、材料、用具、作り方、種類、関係用語、レシピ)				
第5週					
第6週					
第7週	中間試験				
第8週	【料飲Ⅰレストラン・宴会編】 『料飲部門の基礎知識』 第1章 料飲部門概要、第2章 什器・食器・備品類の知識				
第9週	第3章 メニュー				
第10週	第4章 西洋料理の基礎知識(概要、フルコース順序、フルコース解説、テーブルマナー、食材)				
第11週	第5章 朝食の基礎知識				
第12週	第6章 日本料理・中国料理の基礎知識				
第13週	『レストラン実務概論』 第4章 ルームサービス				
第14週	『宴会実務概論』 第1章 概要、第2章 宴会予約、第3章 宴会サービス				
第15週					
第16週	第4章 婚礼サービスと慶弔の知識				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
4. 使用教材(テキスト等) ホテルテキスト【料飲Ⅰレストラン・宴会編】、【料飲Ⅱバー・ラウンジ編】					
5. 単位認定評価方法 評価基準: 絶対評価 ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15% ・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他 担当者実務経験: 都内五つ星ホテルの料飲部門、宴会部門、客室部門などで勤務経験がある教員が、ホテル全般の知識について現場での体験や事例を交えて指導する科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	キャリアプランニング3		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	就職活動時のマナーを学び、採用試験に向けての準備を整え、希望する企業の内定を獲得する。				
◆概要	企業研究や面談を通して、採用試験に向けて準備を行う。また、就職後の労働において必要な心構えや社会人としてのマナーを身につけ、即戦力として働く意識向上を目指す。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	就職に向けて、企業研究について、各種就活書類の書き方				
第2週	履歴書の書き方、セミナー・説明会の目的				
第3週	【就活手帳】封筒宛名の書き方と郵便料金、持参の場合【電話対応】				
第4週	【就活手帳】送付状、お礼状の書き方				
第5週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第6週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第7週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第8週	中間試験(作文)				
第9週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第10週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第11週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第12週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第13週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第14週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第15週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第16週	就活講義、企業研究、試験準備、面談				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
履修中に内定した学生は企業研究レポートなどの課題あり。					
4. 使用教材(テキスト等)					
就職活動手帳					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 60%					
・就職活動への取り組み 30%					
6. その他					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	総合実習3(TOEIC対策)		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	総合演習3では、効果的・効率的にスコアアップが図れるよう問題に対する理解を深める。入学当初のTOEICスコアを測定し、個々のレベルを200点上げる。(総合演習3まで履修した後の目標)また、英語音声は発音できないとうまく聞き取れないため発音練習を徹底して行う。				
◆概要	TOEICは英語圏で国際コミュニケーションをする上で必要な英語力を測定するための試験で、進学・就職・転職・昇進・留学など様々な場面での判断基準として適用されている。試験はリスニングとリーディングの2つのセクションで構成され、どちらも単語の基礎がないとうまく解くことはできないため、TOEIC頻出単語を徹底的に学習し、発声学に基づいて発音練習を行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	TOEICとは 単語帳の使い方について 英語レベルチェックテスト				
第2週	●単語チェック、TOEICサンプルテスト、自己採点				
第3週	●単語テスト ◎TOEIC Part.1 & Part.5				
第4週	●単語テスト ◎TOEIC Part.1 & Part.5				
第5週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第6週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第7週	中間試験: TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第8週	中間試験: TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
第9週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第10週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.5				
第11週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.6				
第12週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.6				
第13週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第14週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第15週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第16週	期末試験: TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第17週	期末試験: TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
3. 履修上の注意					
TOEICスコアを測定するため、総合演習1の第2週目にサンプル問題による試験を実施する。 また、総合演習2の終了時、総合演習4の終了時にそれぞれ以下の要領で試験を受験する。 希望者が10名以上の場合は、TOEIC・IPテストを校内で実施し、スコアを測定する。(¥4,155+施設運営費)					
4. 使用教材(テキスト等)					
プリント使用、TOEICTEST必ずでる単 スピードマスター<Jリサーチ出版>968円(自費)					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
選択授業のテキスト代金は補助活動費から精算せず、受講希望者より後日徴収します。(詳細後日)					総
総合演習2を履修していない学生も総合演習3から受講が可能。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	丸山 千波
科目名	ドレスコーディネート1	必修・選択	選択必修
単位数	2単位	授業形態	講義・演習
総授業数(予定)	33コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	ドレスコーディネーターに必要な婚礼衣裳に関する歴史と基礎知識、専門的用語、実践的技術を学ぶ。 WBJ「認定ドレスコーディネーター」検定の合格を目指す。		
◆概要	ブライダル業界に関わるスペシャリストの実務を理解、関心を深め実践する。 ブライダル・ホテル業界に相応しい立居振る舞いや礼儀作法、ブライダル関連商品の取り扱い方を習得する。		
2. 授業内容（週単位で記入）			
第1週	概要説明/ 第1章 衣裳に関わるスペシャリスト、婚礼衣裳業界について、ドレスコード		
第2週	第2章 新婦の衣裳(洋装・和装) 歴史、デザイン、各名称、サイズ、素材、小物、ブーケ		
第3週			
第4週			
第5週	第6章 ドレスコーディネーターの実務 トータルコーディネート、衣裳のアドバイス、補正、採寸、フィッティング		
第6週			
第7週	フィッティング & コーディネート体験		
第8週	中間試験		
第9週	第3章 新郎の衣裳(洋装・和装) 歴史、種類、サイズ、小物、名称		
第10週			
第11週	第4章 列席者の衣裳		
第12週	第5章～第6章 ドレスコーディネーターの業務・実務 (カウンセリング・実務全般)		
第13週			
第14週	第7章 婚礼美容 / 第8章 ブライダルフラワー / 検定対策		
第15週	模擬試験/WBJ「認定ドレスコーディネーター検定」実施(9月中)		
第16週	期末試験		
第17週			
3. 履修上の注意			
<ul style="list-style-type: none"> ・WBJ「認定ドレスコーディネーター」検定に向け、履修項目の復習を必ず行うこと。 ・検定試験は9月の授業内または9月補講期間中に実施する場合がある。 ・実習での衣裳・小物の取り扱いには丁寧に行う。 ・ドレスルームの使用法に則り、授業態度・授業姿勢の成績評価の対象とする。 			
4. 使用教材(テキスト等)			
日本のドレスコーディネーター育成プログラム、ノートパソコン、ブライダル情報雑誌			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席による評価: 10% ・授業への取り組み(課題提出・授業姿勢) 40% ・中間試験、期末試験による評価: 50% 			
6. その他			
担当者実務経験: 専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウエディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウエディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。			

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	丸山 千波
科目名	ウエディングスビューティフル2	必修・選択	選択必修
単位数	3単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	51コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目		前・後期	前期
		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	アメリカのウエディングの基礎知識と慣習を学び、日本のウエディングとの違いを理解する。WBW「認定ウエディングスペシャリスト」合格を目標とする。		
◆概要	海外でウエディングプロデューサーとして起業するとしたら、どのような知識が必要なのかを学ぶ。アメリカと日本のウエディングの違いに関心を深め、全16章を1章ごとに学習し課題を提出する。課題提出・合格後、次の章へ進み学習する。全ての章に合格し、認定ウエディングスペシャリストの資格取得を目指す。		
2. 授業内容（週単位で記入）			
第1週	第9章【挙式-2】解説/課題		
第2週	第10章【テーブルトップとテーブルウェア】解説/課題		
第3週			
第4週	第11章【ウエディング・ファッション】解説/課題		
第5週			
第6週	第12章【プロデュースの実務を習得する】解説/課題		
第7週			
第8週	第13章【披露宴】解説/課題		
第9週			
第10週	第14章【結婚式の招待状】解説/課題		
第11週			
第12週	第15章【ビジネスフォームと契約】解説/課題		
第13週	第16章課題		
第14週			
第15週			
第16週			
第17週	第16章課題/提出		
3. 履修上の注意			
<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に学習し、学習前には各章を必ず読んでおくこと。 ・課題は実施日の授業内または放課後までに提出すること。 ・課題はA+～Cまでの成績が付けられて返却される。C評価は合格点に達するまで再提出とする。 ・課題合格に向け、グループでテーマ検討・発表する場合がある。 ・課題合格に向け、宿題を出す場合がある。 ・第16章は問題量が多いため、計画的に学習、課題を進めること。 			
4. 使用教材(テキスト等)			
ウエディングスビューティフルテキスト、日本のウエディングプランナー育成プログラム、日本のドレスコーディネーター育成プログラム、ノートパソコン、雑誌、式場パンフレット、電卓			
5. 単位認定評価方法			

評価基準:絶対評価

・出席による評価 10% ・授業への取り組み（課題準備・授業姿勢） 40% ・課題成績 50%

6. その他

担当者実務経験:専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウエディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウエディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬久美子 / 丸山千波	
科目名	パーティープランニング2		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	35コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	7月24日(木)まつもと市民芸術館で開催するドレスショーを施行する。企画力、提案力、オペレーション力を身に付け、学生がドレスショーの施行、運営を担当する。学年、学科の垣根を越えてコミュニケーション力を発揮し、全員でドレスショーを成功させる。				
◆概要	2学年合同のチーム編成で、ドレスショーのテーマ・コンセプトを企画し、チームごとにプレゼンテーションを実施、テーマ決定する。その後、各セクションに分かれ、当日まで綿密な計画とスケジュールに添って練習を重ねる。モデルがドレス、タキシードを着用することでいかにその衣裳の価値を高められるか考える。また観客が楽しめるドレスショーを演出・構成する。				
2. 授業内容(週単位で記入)					
第1週	今年度のイベントについて概要説明/前年度のマニュアル・担当確認				
第2週	グループごとに企画、考案、準備、プレゼン締め切り(4/17予定)				
第3週	グループごとに企画、考案、準備、プレゼン再考・リハ(4/22予定)/プレゼン発表(4/24予定)				
第4週	プレゼン講評/セクション希望届け/トータルビューティ学科顔合わせ				
第5週	セクション発表/企画、準備(各セクションごと)				
第6週	企画、準備(各セクションごと)				
第7週					
第8週					
第9週	中間試験(各セクションの中間プレゼン)、成果報告				
第10週	企画、準備(各セクションごと)				
第11週					
第12週					
第13週	校内リハーサル				
第14週	校内リハーサル、搬入準備				
第15週	期末試験/搬入、会場リハーサル(7/23)、本番(7/24)、搬出				
第16週	振り返り/マニュアル作成				
第17週	マニュアル作成				
第18週	マニュアル作成				
3. 履修上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的、自主的に取り組むこと。また、イベントは全員参加とする。 ・夏季休業中にドレスショーのレポートを作成し、夏季休業明けに提出をする場合がある。レポートも成績評価の対象とする。 ・衣裳、小物(アクセサリや造花、パニエなど)、備品は丁寧に扱い、所定の位置へ返却をすること。 ・備品、ドレスルームの使用法に則り、授業態度・授業姿勢の成績評価に反映する。 ・1年生はドレスショーのモデルとして参加する為、ヘア・メイクの練習があり、変則的にトータルビューティ学科の練習に加わる。(授業時間外の可能性もある)については、自主的にヘア・メイクの練習に加わり、ドレスショーに向けて準備と進捗状況を把握し、1年生のサポートを行うこと。 ・SNS(LINE、Instagram等)は連絡手段の使用に限る。全員で共有、決定する事項に関しては、授業内で直接話し合い 					
4. 使用教材(テキスト等)					
ノートパソコン					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価10% ・授業の取り組み40% ・施行当日の取り組み、完成度50%					
6. その他					
担当者実務経験: シティホテルでブライダルアテンドとして勤務経験があり、認定エグゼクティブインストラクター資格を有する教員とゲストハウスやドレスサロンでドレスコーディネーター兼ウエディングプランナーの経験のある教員が、婚礼イベントに関する進行の組み立て方や、接客術、当日の進行管理・施行方法を、現場での体験や実例を交えて指導を行う科目である。					

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科	担当者	百瀬 久美子
科目名	レストランサービス実習5. 6	必修・選択(注記)	選択必修
単位数	2単位	授業形態	演習
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	実習室403
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	1、正しい接客マナーができる。2、正しい西洋料理のランチテーブルサービスができる。3、各セクション(フロントサーバー、バックサーバー、ランナー、レセプションист)の役割を正しく理解し、簡潔かつ的確なコミュニケーションを取りながら実践できる。4、カクテル演習の知識を深め、備品の正しい使用方法を身につける。5、カクテルレシピを制作する。6、カクテルコンペティションで個人の力を発揮し、チームに貢献する。コンペティションを成功させる。		
◆概要	料飲サービス時の足の位置や手の出し方など、身体的動作に技術が備わっていてこそお客様に安心と信頼を感じてもらえ、満足していただける。状況に応じて優先順位を変更するなど、切羽詰まった状況に置かれたときに、基本動作を身につけていることで適切な判断ができ、効率のよい仕事に結びつく。自らのサービスが商品であることをこの授業で学んでいく。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	【カクテル演習】カクテル備品使い方、技術演習、レシピ作成、カクテル作成		
第2週			
第3週			
第4週			
第5週	【カクテルコンペティション】チーム編成		
第6週	【カクテルコンペティション】レシピ作成		
第7週			
第8週	中間試験(カクテルレシピ作成・プレゼン)		
第9週	【カクテルコンペティション】カクテル作成		
第10週			
第11週			
第12週	【カクテルコンペティション】チーム練習		
第13週			
第14週			
第15週	コンペリハーサル		
第16週	期末試験(カクテルコンペティション本番、反省会)		
第17週	HRS対策		
第18週	HRS対策		
3. 履修上の注意			
制服を正しく着用すること。(肩にかかる長さの髪は後ろで束ねお団子にし、シニオンに入れ込む。白ワイシャツは汚れに留意し綺麗なものを着用する。ネクタイ、ベスト、タブリエは授業開始時間前までに完璧に整えてから授業に参加する。)授業終了前10分は片づけ、清掃業務にあてる。当番はチェック表にサインし、翌日の洗濯物の取り込み作業も評価対象とする。また、レストラン業務はチームワークが必須であることから、協調性をもって授業に取り組む姿勢が必要である。			
4. 使用教材(テキスト等)			
なし			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価			
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 70%			
・中間・期末試験状況 20%			
6. その他			
実習に使用する備品(グラス・食器など)を破損した場合は、始末書の提出が必要になる。			
担当者実務経験: 五つ星ホテルのメインダイニング・サービススタッフ、海外・都内でレストランサービスの経験がある教員が、基本動作を正しく身に付けさせながら、現場での体験や事例を交えて技術指導をする科目である。			

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	丸山 千波	
科目名	ブライダルプランニング3		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	2月予定の挙式実習に向けて企画、プレゼン、準備、練習、施行を実施する。企画、提案力の向上と施行運営の能力を身に付け、リアルウェディングを成功させる。				
◆概要	リアルウェディングの施行に向けて、企画、お打ち合わせ、施行・運営まで全てにおいて学生が携わる。結婚式に関わる各スペシャリストの存在を理解、把握する。準備、練習は各セッションごとチームとなり、制作物や提出物のスケジュール管理徹底、企画、提案を遂行させる。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	挙式実習について概要説明/新郎新婦について/注意事項等 昨年の担当セッションと実施内容の共有				
第2週	グループワーク(テーマ、進行、演出等)				
第3週	グループごとにプレゼンテーション				
第4週	グループワーク(内容再考)				
第5週	グループごとにプレゼンテーション				
第6週	グループワーク、挙式練習				
第7週	グループワーク、挙式練習				
第8週	グループワーク、挙式練習				
第9週	グループワーク、挙式練習				
第10週	グループワーク、挙式練習				
第11週	グループワーク、挙式練習				
第12週	グループワーク、挙式練習				
第13週	グループワーク、挙式練習				
第14週	グループワーク、挙式練習				
第15週	リハーサル、挙式施行				
第16週	反省会				
第17週	マニュアル作成				
3. 履修上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・2学年合同の授業とし、挙式・披露宴の施行は学生全員が参加すること。 ・1、2年生でグループを組み、グループワークやプレゼンを実施する。自主的かつ積極的に取り組むこと。 ・施行経験のある2年生が主体となり、1年生をリード・サポートする。1年生も積極的に参加をする。 ・制作物は2年生の卒業研究と関連、並行して行うため、授業の都度、経過報告を実施する。 ・グループワークを基本とするため授業時間内で企画や制作を行うが、時間内で取り組めなかった場合、授業時間外(SHR前、放課後)に準備、練習に取り組む場合もある。 ・SNS(LINE、Instagram等)は連絡手段の使用に限る。全員で共有、決定する事項に関しては、授業内で直接話し合い、検討を行うこと。 					
4. 使用教材(テキスト等)					
ノートパソコン					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席による評価：10% ・授業への取り組み(課題提出・授業姿勢)40% ・中間試験、期末試験による評価：50% 					
6. その他					
担当者実務経験：専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウエディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウエディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。					

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	丸山 千波
科目名	ブライダル総論	必修・選択	選択必修
単位数	2単位	授業形態	講義・演習
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	前・後期
			後期
			○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	1年次に学習したブライダルの歴史、習慣、儀式、用語を理解した上で、ウェディングプランナーの業務、実務、役割を習得する。BWJ「認定ウェディングプランナー」の試験合格を目指す。		
◆概要	ブライダル業界の基礎、ウェディングプランナーに必要な知識、実践的なスキルを身に付けると共に、多様化するブライダル業界の現状を知り、関心を深める。		
2. 授業内容（週単位で記入）			
第1週	第6章 ウェディングプランナーの業務と流れ		
第2週			
第3週	第7章 新規接客業務		
第4週			
第5週	第8章 婚礼打合せ業務		
第6週			
第7週			
第8週	第9章 婚礼施行・進行管理業務		
第9週	第10章 販売促進		
第10週	中間試験		
第11週	時事問題/模擬試験		
第12週	WBJ「認定ウェディングプランナー検定」実施		
第13週	検定対策		
第14週	検定対策		
第15週	検定対策		
第16週	検定対策		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習に入る前に各自、第1章～第5章の復習を必ず行っておくこと。 ・検定試験の日程については変更になる可能性もある。については、自主的に学習すること。 			
4. 使用教材(テキスト等)			
日本のウェディングプランナー育成プログラム			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席による評価: 10% ・授業への取り組み(課題提出・授業姿勢) 40% ・中間試験、期末試験による評価: 50% 			
6. その他			
担当者実務経験: 専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウェディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウェディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。			

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	丸山 千波		
科目名	ブライダルプランナー演習	必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ブライダルコーディネーターの基礎を復習し、ブライダルコーディネーターに必要な能力と知識を習得する。 国家試験である「ブライダルコーディネーター実務技能検定3級」を受験し合格を目標とする。				
◆概要	1年次の復習として、ブライダルコーディネーターに必要な知識、能力をより深く学習する。ブライダル分野に限らず、一般常識や時事問題にも触れて学習をする。ブライダル業界で必要とされる幅広い能力を身に付け、学科・実技共に対策を行う。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	ブライダルコーディネーター実務技能検定について				
第2週	練習問題/解説/答え合わせ				
第3週	練習問題/解説/答え合わせ				
第4週	練習問題/解説/答え合わせ				
第5週	練習問題/解説/答え合わせ				
第6週	練習問題/解説/答え合わせ				
第7週	練習問題/解説/答え合わせ				
第8週	練習問題/解説/答え合わせ				
第9週	練習問題/解説/答え合わせ				
第10週	中間試験				
第11週	練習問題/解説/答え合わせ				
第12週	練習問題/解説/答え合わせ				
第13週	練習問題/解説/答え合わせ				
第14週	練習問題/解説/答え合わせ				
第15週	練習問題/解説/答え合わせ ★2026年1月 国家試験実施				
第16週	練習問題/解説/答え合わせ				
第17週	練習問題/解説/答え合わせ				
第18週	期末試験				
3. 履修上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題は宿題とする場合もある。 ・当校は、国家試験実施認定校として開催・運営を行っているが、開催基準が満たない場合、名古屋または東京会場にて受験を実施する場合がある。(9月中旬には認定校の可否決定予定) 当校で試験実施ができない場合、移動手段・旅費(各自負担)に関しては追って知らせることとする。 ・受験票に受験日より6ヶ月以内に撮影した、横3cm×縦4cmの証明写真が必要となるため、受験前までに証明写真の撮影を必要とする。(撮影費用は各自負担) 					
4. 使用教材(テキスト等)					
ブライダルコーディネーターテキスト、ブライダル用語辞典					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席による評価：10% ・授業への取り組み(課題提出・授業姿勢)40% ・中間試験、期末試験による評価：50% 					
6. その他					
担当者実務経験：専門式場、ホテル内ドレスショップでドレスコーディネーター兼ウエディングプランナーとして勤務経験がある教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウエディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	清水	
科目名	カラーコーディネート2		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	配色の基本、色もたらす心理的効果、生活の中での色もたらす効果などを学び、色のコーディネートの仕方や日常における色の活用方法を理解する。 色彩検定3級に合格する。				
◆概要	色のはたらきや性質、「色」の表し方や混色理論などの基礎知識、色もたらす心理的効果、カラーコーディネートの基礎を学ぶ。配色(色の組み合わせ)については、主に「PCCS」(色彩体系の一つ)をもとに学んでいく。検定合格に向けて、過去問題を中心に問題演習に多く取り組む。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	ファッションと色彩				
第2週	ファッションと色彩				
第3週	インテリアと色彩・色名 過去問解答・解説				
第4週	過去問解答・解説				
第5週	過去問解答・解説				
第6週	過去問解答・解説				
第7週	過去問解答・解説 期末試験				
第8週	本試験答え合わせと解答解説 期末課題				
第9週	期末課題				
第10週	期末課題				
3. 履修上の注意					
課題が期日までに提出しない場合、基準に満たない場合は、単位不認定となる場合がある。 授業に出席していても、私語や居眠りが多い場合はその時間を欠席とみなすことがある。					
4. 使用教材(テキスト等)					
『A・F・T色彩検定公式テキスト3級編』 新配色カード 12色程度の色鉛筆 はさみ のり					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 授業態度20%、中間・期末試験50%、課題・小テスト30%					

ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動する。
期末試験の得点が低くD評価だった場合、本試験合格で単位認定する。

6. その他

検定受験日11/9(日)

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	料飲サービス		必修・選択 (注記)	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	アヴニール	前・後期	後期前半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	平成14年に厚生労働省大臣より職業能力開発促進法に基づく「レストランサービス技能士」の指定試験機関の指定を受けた『日本ホテル・レストランサービス技能協会』主催のレストランサービス技能3級試験(国家資格)の実技試験の合格を目標とする。				
◆概要	「レストランサービス技能検定」を受検するためには、各等級毎に所定の実務経験年数が必要となるが、3級については実務経験年数のない専門学校の在校生で卒業する見込みのある者も受検できるよう例外的な措置として承認校制度が設けられ、未来ビジネスカレッジはその承認校である。在学中に国家資格を取得することはサービス業界でも高い評価を得られる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	【朝食のサービス】 メニュー、試験場に用意してあるもの確認、シミュレーション				
第2週	【朝食のサービス】 指示事項にある課題練習				
第3週	【ランチサービス】 メニュー、試験場に用意してあるもの確認、シミュレーション				
第4週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
第5週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
第6週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
第7週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
第8週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
第9週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
3. 履修上の注意					
レストランサービス技能検定の筆記試験に不合格した者も同様に本科目を受講し、演習を行う。					
4. 使用教材(テキスト等)					
制服着用					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)70%					
・中間・期末試験状況 20%					
6. その他					
実習に使用する備品(グラス・食器など)を破損した場合は、始末書の提出が必要になる。					
担当者実務経験：五つ星ホテルのメインダイニング・サービススタッフ、海外・都内でレストランサービスの経験がある教員が、基本動作を正しく身に付けさせながら、現場での体験や事例を交えて技術指導をする科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	信州ブライダル協議会	
科目名	ブライダル実務1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・校外	前・後期	後期
企業連携科目	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ブライダル業界や、結婚式の基礎を学び、リアルウェディングの施行技術を身に付ける。				
◆概要	各企業のスペシャリストによる特別講義を受講し、ブライダル関連企業の業務、お客様のニーズに合わせた接客方法や接客マナーを学ぶ。また、挙式実習において、当日施行・進行管理技術を実践的に身に付ける。後半は2月に行うリアルウェディングについて役割ごとに準備・練習し、本番当日も施行する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週 9/25	ブライダル特別講義				
第2週 10/2	ブライダル特別講義				
第3週 10/9	ブライダル特別講義				
第4週 10/16	ブライダル特別講義				
第5週 10/30	ブライダル特別講義				
第6週 11/6	ブライダル特別講義				
第7週 11/13	ブライダル特別講義				
第8週 11/20	ブライダル特別講義				
第9週 11/27	ブライダル特別講義				
第10週 12/4	ブライダル特別講義				
第11週 12/11	学校にて練習、準備				
第12週 12/18	学校にて練習、準備				
第13週 1/8	挙式当日の動き(役割ごと確認・概要説明)(実地訓練)①				
第14週 1/15	挙式当日の動き(実地訓練)②				
第15週 1/22	ウェディング最終チェックとリハーサル				
第16週 2/5	挙式&披露宴施行				
第17週 2/12	挙式施行の反省とまとめ				
3. 履修上の注意					
会場へは徒歩で移動すること。授業時間は13:45～15:15とする。一般のお客様のご迷惑にならないよう行動すること。履修期間中に協議会施設で施行される結婚式(土曜日・日曜日)を見学すること。(会場や日程などの調整は担当教員が行う。)					
4. 使用教材(テキスト等)					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 相対評価					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 挙式実習における取り組み度と理解度 (70%) ・ 授業期間内の学生の出席率 (10%) ・ 授業期間中の学生の意欲的な取り組み度 (20%) 					
担当者実務経験：ブライダル関連企業の現役ブライダルスタッフが、現場での経験を活かし近年のブライダル事情や実例を交えて、接客方法や婚礼施行方法を指導する科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	ホテル総合演習4		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	1年次に履修した『ホテル総合演習1・2』で習得した宿泊部門の知識を基に、料飲部門の知識を深め、ホテル実務技能認定試験上級の合格を目指す。				
◆概要	ホテル実務技能認定試験上級の試験範囲は、宿泊部門・料飲部門・施設設備メンテナンス部門・営業部門などのホテル業における幅広い専門分野知識、および語学力にまで多岐に渡る。また、テキストに記載されていないホテル業界および関連業界(旅行・観光)の動向についての出題もあるため、関連する時事問題にも注目し演習をすすめる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	『ホテル実務技能認定試験 上級』過去問題、解答解説				
第2週	『ホテル実務技能認定試験 上級』過去問題、解答解説				
第3週	『ホテル実務技能認定試験 上級』過去問題、解答解説				
第4週	『ホテル実務技能認定試験 上級』過去問題、解答解説				
第5週	『ホテル実務技能認定試験 上級』過去問題、解答解説				
第6週	『ホテル実務技能認定試験 上級』過去問題、解答解説				
第7週	『ホテル実務技能認定試験 上級』過去問題、解答解説				
第8週	中間試験				
第9週	『ホテル実務技能認定試験 上級』過去問題、解答解説				
第10週	『ホテル実務技能認定試験 上級』過去問題、解答解説				
第11週	『ホテル実務技能認定試験 上級』過去問題、解答解説				
第12週	『ホテル実務技能認定試験 上級』過去問題、解答解説				
第13週	『ホテル実務技能認定試験 上級』過去問題、解答解説				
第14週	『ホテル実務技能認定試験 上級』過去問題、解答解説				
第15週	『ホテル実務技能認定試験 上級』過去問題、解答解説				
第16週	『ホテル実務技能認定試験 上級』過去問題、解答解説				
第17週	本検定、期末試験				
3. 履修上の注意					
4. 使用教材(テキスト等)					
ホテルテキスト【宿泊Ⅰ・フロントオフィス編】【宿泊Ⅱ・フロントサービス編】【料飲Ⅰレストラン・宴会編】【料飲Ⅱバー・ラウンジ編】【ホテル業務関連知識】					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
担当者実務経験: 都内五つ星ホテルの料飲部門、宴会部門、客室部門などで勤務経験がある教員が、ホテル全般の知識について現場での体験や事例を交えて指導する科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	総合実習5(学生カフェ)		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室(403)	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	「レストランサービス実習1・2」で習得した料飲サービスの技術、衛生学・料飲概論などで得た知識を応用し、「学生レストラン」を開業する。営業を通して自主性および協調性を学び、ホスピタリティの本質を理解する。また、突発的な事態でも冷静にかつ臨機応変な対応ができるよう訓練をする。				
◆概要	料飲サービスを支える条件には「知識」「技術」「マインド」「チームワーク」の4つの要素がある。「知識」「技術」に偏ったサービスはときとして作業と受け取られることがある。気持ちや想い、配慮といった「マインド」が伴い、さらに「チームワーク」で業務に臨むという姿勢が重要である。様々な場面がつながってひとつの流れとなるサービスの美しさを追及する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	学生レストラン概要、過去メイキングムービー				
第2週	テーマ・コンセプト決め				
第3週	メニュー・価格決め(原価計算)				
第4週					
第5週					
第6週	役割決め				
第7週	役割ごとの打ち合わせ、練習				
第8週					
第9週					
第10週					
第11週					
第12週	全体練習				
第13週					
第14週					
第15週	リハーサル				
第16週	学生レストランオープン(予定:2026年2月16~18日(仮)オープン)				
第17週	反省会、引継書類作成				
3. 履修上の注意					
授業終了前10分は片づけ、清掃業務にあてる。 グラス・食器の拭き上げ作業などはお客様へ直接的なサービスではないが、衛生面においても重要な仕事であるため、評価基準とする。また、レストラン業務はチームワークが必須であることから、協調性をもって授業に取り組む姿勢が必要である。					
4. 使用教材(テキスト等)					
制服着用					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 50%					
・課題発表(中間・期末) 40%					
6. その他					
実習に使用する備品(グラス・食器など)を破損した場合は、始末書の提出が必要になる。 担当者実務経験:五つ星ホテルのメインダイニング・サービススタッフ、海外・都内でレストランサービスの経験がある教員が、基本動作を正しく身に付けさせながら、現場での体験や事例を交えて技術指導をする科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	各担当	
科目名	卒業研究		必修・選択	選択必修	
単位数	3単位	授業形態	実習	年次	2
総授業数(予定)	51コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	2年間の学習を活かし、『リアルウエディング』関連のペーパーアイテム、卓上装花、動画製作など新郎新婦様のご要望に添った内容で制作する。また、その制作物の現在の傾向などを研究し、卒業論文をまとめ、中間、最終発表で使用したパワーポイントデータを提出する。				
◆概要	個人、又はグループで研究テーマを決定し、研究・制作を行う。研究課程は中間、最終の2回の発表会にてパワーポイントデータにて発表する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週(1コマ)	卒業研究概要説明、スケジュール説明				
第2週(1コマ)	テーマ決め、スケジュールを立てる、費用計画				
第3週(1コマ)	必要備品の準備、購入、研究・制作に取り掛かる				
第4週(1コマ)	研究・制作				
第5週(1コマ)					
第6週(1コマ)					
第7週(1コマ)					
第8週(1コマ)					
第9週(5コマ)	研究・制作、中間発表練習				
第10週(5コマ)	研究・制作、中間発表練習				
第11週(5コマ)	中間発表				
第12週(5コマ)	研究・制作、論文作成				
第13週(5コマ)					
第14週(5コマ)					
第15週(5コマ)	研究・制作、論文作成、最終発表練習				
第16週(5コマ)	研究・制作、論文作成、最終発表練習				
第17週(5コマ)	最終発表				
3. 履修上の注意					
毎週金曜日に1週間分の研究日誌を提出する。研究、マーケティング等、就職後に役立てるよう積極的に行なう。中間、最終発表は評価表を用いて、学科教員、他グループ、1年生が評価する。* 内定企業から課題を出されているケースや入社までに資格取得を推奨される等の理由で『リアルウエディング』関連の制作物以外の研究を希望する場合は、担当教員に相談すること。					
各授業テキスト、ノートパソコン他					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・ 出席による評価 10% ・ 授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）40%					
・ 完成度（研究内容・発表） 50%					
6. その他					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	総合実習4(TOEIC対策)		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	総合演習4でも、効果的・効率的にスコアアップが図れるよう問題に対する理解を深める。入学当初のTOEICスコアを測定し、個々のレベルを200点上げる。(総合演習4まで履修した後の目標) また、英語音声は発音できないとうまく聞き取れないため発音練習を徹底して行う。				
◆概要	TOEICは英語圏で国際コミュニケーションをする上で必要な英語力を測定するための試験で、進学・就職・転職・昇進・留学など様々な場面での判断基準として適用されている。試験はリスニングとリーディングの2つのセクションで構成され、どちらも単語の基礎がないとうまく解くことはできないため、TOEIC頻出単語を徹底的に学習し、発声学に基づいて発音練習を行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	TOEICとは 単語帳の使い方について 英語レベルチェックテスト				
第2週	●単語チェック、TOEICサンプルテスト、自己採点				
第3週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 1 & Part. 5				
第4週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 1 & Part. 5				
第5週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第6週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第7週	中間試験：TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第8週	中間試験：TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
第9週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第10週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 5				
第11週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 6				
第12週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 6				
第13週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 4 & Part. 7				
第14週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 4 & Part. 7				
第15週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 4 & Part. 7				
第16週	期末試験：TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第17週	期末試験：TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
3. 履修上の注意					
TOEICスコアを測定するため、総合演習1の第2週目にサンプル問題による試験を実施する。 また、総合演習2の終了時、総合演習4の終了時にそれぞれ以下の要領で試験を受験する。 希望者が10名以上の場合は、TOEIC・IPテストを校内で実施し、スコアを測定する。(¥4,155+施設運営費)					
4. 使用教材(テキスト等)					
プリント使用、TOEICTEST必ずでる単 スピードマスター<Jリサーチ出版>968円(自費)					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
選択授業のテキスト代金は補助活動費から精算せず、受講希望者より後日徴収します。(詳細後日)					総
総合演習2を履修していない学生も総合演習3から受講が可能。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	百瀬 久美子
科目名	総合演習2	必修・選択	選択必修
単位数	1単位	授業形態	講義・演習
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	教室・各実習室
企業連携科目		年次	2
		前・後期	前後期
	実務経験のある教員等による授業科目		
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。		
◆概要	クラス担任の指導によりホームルーム活動を行います。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画 等		
3. 履修上の注意			
出席時間数等は授業内で指示します。			
4. 使用教材(テキスト等)			
学生の手引き等			
5. 単位認定評価方法			
評価基準:絶対評価 出席時間、取り組みにより評価			
6. その他			

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。